

RACE REPORT




 Round.03 **SUZUKA**
第3戦 鈴鹿サーキット

2023年4月22日(土)

予選

天候：晴れ 路面：ドライ

#38 坪井翔

予選：2番手

#39 阪口晴南

予選：10番手

4月7～9日に、静岡県富士スピードウェイで行われた第1戦／第2戦で幕を開けた2023年の全日本スーパーフォーミュラ選手権。わずか2週間というインターバルで迎えた第3戦の舞台は、三重県の鈴鹿サーキットだ。3月には合同テストも行われており、今季唯一事前にテストが行われ

ていたコースだが、今回は二輪との併催となる2&4レース。コースコンディションの変化に対しての対応も必要となる。

そんな一戦は4月22日(土)のフリー走行で幕を開けた。鈴鹿は富士に比べるとオーバーテイクがしづらいコースで、午後の予選は決勝グリッドに向けた重要な意味があった。

PRACTICE フリー走行

 4月22日(土) 11:00～12:35 天候：晴れ 路面：ドライ
 ベストタイム #38 坪井翔 1'37.265 / #39 阪口晴南 1'37.937

予選日となる4月22日(土)の鈴鹿サーキットは、朝から快晴に恵まれた。二輪等の走行に続き、他大会よりもやや遅めの午前10時55分から予定されていたフリー走行だが、二輪で赤旗中断があったことから、5分遅れとなる午前11時00分にスタートした。晴れてはいるもののやや風が強いコンディションのなか、開始5分には#55 ジェム・ブリュックバシェがコースアウト。早くも赤旗中断があった。

P.MU/CERUMO・INGINGは午前11時14分の再開後に坪井翔、阪口晴南ともにコースインすると、まずは3周目に坪井が1分38秒626を記録し3番手、阪口が1分38秒351で2番手につけるなど、好調な走りを見せる。その後もピットアウト～インを繰り返しながら、2台は予選に向けたセットアップを進めていった。

セッションは終盤を迎え、各車ともにアタックシミュレーションを行おうかというタイミングとなったが、そんななか残り11分というタイミングのデグナーカーブ立ち上がりで#7 小林可夢偉がクラッシュを喫してしまう。そのためセッションは5分間延長され、午後0時27分に再開された。

ここで各車が一齐にアタックを行っていったが、大きくタイムを上げたのが坪井。1分37秒265を記録し、トップ

に浮上する。直後にこのタイムは塗り替えられたが、2番手でフリー走行を終えた。ただ坪井は「クルマは悪くありませんが、これまでもフリー走行で良いときはあったので。予選はコンディションも変化すると思うので、しっかり合わせ込まないといけません」と午後の予選に向けて気を引き締めた。

一方、阪口は1分37秒937というタイムで14番手だが、上位とはかなり僅差。「走り出しからタイムが上がりませんが、そのヒントが今回の走行で分かったような気がします」と今後に向けた明るい材料を得た様子だった。



QUALIFY 公式予選

4月22日(土) 15:55~16:42 天候:晴れ 路面:ドライ
ベストタイム #38 坪井翔 1'35.835 / #39 阪口晴南 1'37.004

午前に行われたフリー走行の後、ピットウォークや二輪JSB1000の決勝レースを経て迎えた公式予選。今回、Q1のA組に出走したのは阪口だ。これまで鈴鹿のノックアウト形式の予選では、ポールポジション争いに加わることができていなかった阪口だが、「トップ6に入るハードルは高いですが、昨年までとは異なり、自分たちのベストパフォーマンスを出せば通れるのではないかと思います」とQ1突破に向けて意気込んでいた。

その意気込みを繋げるべく、コースインした阪口は一度ピットに戻ると、残り5分というタイミングで再コースイン。他車とのギャップを作りながらアタックラップに入っていく。ここで阪口はチェッカー一周に1分37秒004というタイムを記録。5番手につけQ2進出を果たしてみせた。直後、トラックリミット違反を検証されるが幸い違反はなかった。

続いて午後4時10分からスタートしたB組に出走したのは坪井。「Q1はきっちり走れば通れると思っています」と自信をもっていた坪井は、阪口同様コースイン後一度ピットへ。残り5分で再コースインしていった。

坪井はアタックラップに入っていくと、セクター1、さらに2~3とすべてのセクターで最速タイムを記録していく。そしてそのままチェッカーを受けると、1分36秒413と、2番手以下に0.480秒差をつける圧倒的なタイムをマーク。見事トップタイムでQ1を突破し、P.MU/CERUMO・INGINGは2台そろってのQ2進出を果たした。

10分間のインターバルを経て迎えたQ2だったが、Q1のB組での走路外走行の検証に時間がかかり、5分間ディレイとなる午後4時35分にスタートした。陽が傾きつつあるなか、坪井、阪口の順でコースに入り、チェッカーに向けてアタックラップに入っていった。

上位陣は一気に1分35秒台に入っていくが、そのなかで坪井はアタック一閃！ 1分35秒835までタイムを上げてみせたが、#53大湯都史樹に0.043秒差届かず。2番手となった。とはいえフロントロウ獲得と好位置につけてみせた。

一方阪口も果敢にアタックを展開したものの、これまで予選で課題としていたQ1からQ2への“上げ幅”が課題となってしまった。またアタック中に、日立Astemoシケインでわずかにアウトにタイヤを落としたこともあり、Q1のタイムにもわずかに及ばない1分37秒023とい

うタイムで、順位は11番手となった。

とはいえ、P.MU/CERUMO・INGINGは坪井がフロントロウを獲得。さらに阪口は予選後、1台がタイム抹消となったためひとつ繰り上がり10番手と、2台が上位を見据える位置につけて予選を締めくくった。富士スピードウェイでの第2戦の展開を考えれば、優勝も現実的な目標だ。チームにとって決勝へ大いに期待を高める予選日となった。

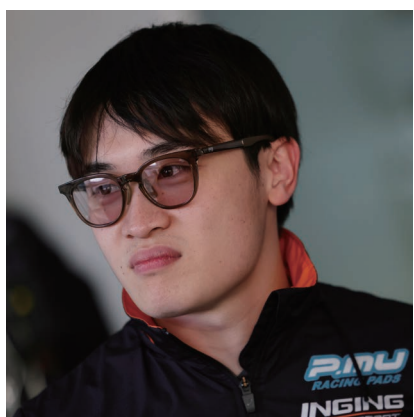


COMMENTS ドライバー／監督コメント



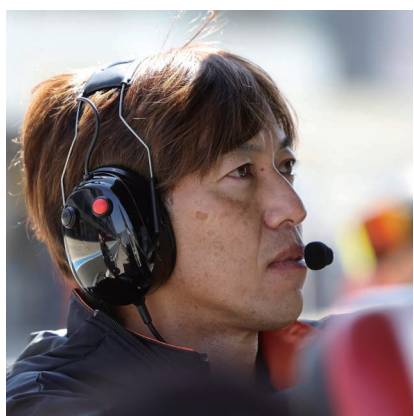
38 坪井 翔 SHO TSUBOI

「フリー走行から好調で、公式予選に向けても今週は良い争いができるのではないかと手ごたえがありました。ただフリー走行からタイムが上がりますし、昨年からのQ1からQ2へのアジャストする部分で、タイムアップできない状況が続いていました。しかし今回はQ1からしっかり予選を上げることができて良かったですね。あとわずかなところでしたし、4戦連続でホンダ勢にポールポジションを獲られているので悔しいところはあります。ただアタックラップについては特に失敗したわけでもないの、仕方がないですね。フロントロウを獲得できたことで決勝に向けて良い流れにありますし、良い位置からスタートできるので、結果に繋がたいですね」



39 阪口 晴南 SENA SAKAGUCHI

「Q1突破を目標としていたので、それを危なげなく達成できたことは良かったです。ただその次のステップに進むためには、さらにQ2のタイムを上げなければいけません。アタックではミスもありましたが、上位陣とは差があるので、その点はしっかりと考え直さないとはいけません。以前よりは良い状況ですが、トップグループの上がり代が計り知れないので……。今後もしっかりとQ1を突破して、Q2の経験をつけていかないとはいけませんし、上がり代がどこにあるのかを探っていきたいです。10番手からのスタートということでポイントはしっかり狙えますし、第2戦をさらに上回る結果が残せるよう、しっかりレーススペースを作っていきたいです」



立川 祐路 監督 YUJI TACHIKAWA

「坪井選手は惜しかったですね！ あとほんのわずかでした。午前のフリー走行からずっと調子が良かったので、ポールポジションを狙える力はあると思っていましたが、0.043秒差でわずかに届きませんでした。本人も悔しがっていたので、明日はしっかり結果で取り返したいですね。阪口選手も昨年からずっと苦勞していたところから復調の兆しがありますし、今回もしっかりQ1を突破してくれました。Q2はわずかに伸び悩みましたが、着実にステップを踏めていると思うので、その点は良かったです。チームとしても良いかたちで予選日を終わることができたので、明日の決勝日も良い結果で終えたいと思っています。決勝レースも応援よろしくをお願いします！」



RACE REPORT

RESULT リザルト

第3戦鈴鹿 予選結果

Pos.	No.	Driver	Team	Engine	Q1	Q2
1	53	大湯都史樹	TGM GP SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'36.534	1'35.792
2	38	坪井翔	P. MU/CERUMO・INGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'36.413	1'35.835
3	1	野尻智紀	Red Bull MOTUL MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'37.444	1'35.906
4	3	山下健太	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'37.267	1'36.126
5	5	牧野任祐	DOCOMO DANDELION M5S SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'36.954	1'36.280
6	4	小高一斗	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'36.967	1'36.403
7	65	佐藤蓮	TCS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'36.940	1'36.563
8	15	L. ローソン	Red Bull MOTUL MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'36.933	1'36.711
9	20	平川亮	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'37.387	1'36.814
10	39	阪口晴南	P. MU/CERUMO・INGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'37.004	1'37.023
11	36	G. アレジ	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'36.893	1'37.060
12	37	宮田莉朋	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'36.705	1'53.858
13	12	福住仁嶺	ThreeBond Racing	HONDA/M-TEC HR-417E	1'37.541	
14	18	国本雄資	Kids com KCMG Elyse SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'37.310	
15	50	松下信治	B-Max Racing Team	HONDA/M-TEC HR-417E	1'37.709	
16	64	山本尚貴	TCS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'37.377	
17	55	C. ブリュックバシェ	TGM GP SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'38.176	
18	14	大嶋和也	docomo business ROOKIE SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'37.615	
19	19	関口雄飛	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'37.626	
20	51	R. ハイマン	BYOUBUGAURA B-MAX SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'38.566	
以上 予選通過 (A Gr. 1'43.291-107% B.Gr 1'43.161-107%)						
	6	太田格之進	DOCOMO DANDELION M6Y SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	2'09.386	
	7	小林可夢偉	Kids com KCMG Cayman SF23	TOYOTA/TRD 01F	4'33.233	

Q1 B Gr.

No.7 は、当該ラップタイム不採用 (1'37.252) (全日本スーパーフォーミュラ選手権統一規則第 19 条 2. (走路外走行))

No.6 は、当該ラップタイム不採用 (1'37.644) (全日本スーパーフォーミュラ選手権統一規則第 19 条 2. (走路外走行))

No.6 は、3グリッド降格 (全日本スーパーフォーミュラ選手権統一規則第 19 条 5. (走路妨害))

Q2

No.37 は、当該ラップタイム不採用 (1'36.146) (全日本スーパーフォーミュラ選手権統一規則第 19 条 2. (走路外走行))